

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。



社会福祉法人 小羊学園

〒433-8105

静岡県浜松市北区三方原町 2709-12

電話：053-414-1833 FAX：053-438-7707

E-mail kohitsuji@imix.or.jp

H.P http://www.kohitsuji.or.jp/

発行人：稲松 義人

印刷所：聖隷サービス(有)

定 価：一部 30 円

2009年8月20日

第 316 号

「小羊学園を支える」から「小羊学園とつながる」へ

理事長 稲松 義人

どのような種別の施設でも、新しい施設ができて一年くらいは、最も緊張感が高いようです。様々な課題が次から次にできて、その対応に追われながら過ごす期間なのです。四年前に新天地静岡市ではじめた重症心身障害児者施設つばさ静岡も、知的障がい福祉のイメージチェンジを思い描いて建設した三方原スクエアも、小さい施設ですが、先月スタートした在宅支援センターはびるすにおいても、それは同じだと思います。

三方原スクエアは竣工してから一〇か月が経ちます。今回は、施設の移転ということでしたので、利用者の多くは継続して入所する人たちでしたし、移転といっても全く新しい地域ではありませんでした。それでも三方原スクエアでの毎日の取り組みにおいては、新設の施設に匹敵する戸惑いがありました。そしてそれは今も続いていると思います。

そんな中私は、年度が改まるのを期に、三方原スクエアの施設長を代わってもらいました。中心的な施設の運営を理事長として自分で負うこと、また、社会福祉法人小羊学園としての今後の最も大きな課題である、支援センターわかぎの改築計画を中心になって進め

ること以上に、むしろそれらの事業の基盤となる地域をどう耕していくのかということ、私自身の今後のテーマにしようと思いました。

社会福祉法人小羊学園としての将来構想をまとめていくことは、執行役員会を中心に、課題検討のために三つのプロジェクトチームをつくって取り組みはじめています。一つ目は、老朽化も気になる支援センターわかぎの改築に向けてどのような施設を目指すべきかを検討するグループ。二つ目は、地域での生活を支援するケアホームのあり方を検討し、それを実際にどのような推進していくかを検討するグループ。

そして三つ目は、地域に住む人たちが日中利用する施設を地域の必要に合わせながらどのように整備していくかを検討するグループです。これらのグループでなされる協議は、どうしても施設とか法人という枠組みの中での発想になっってしまうと思います。もちろん、法人としての主体性と社会的な責任をもった取り組みでいくことですから、それでよいと思います。

しかし、それと並行して、これまで日本の社会福祉の中核をなしてきた「施設」を中心にした発想ではなく、「地域」という視点に立って、今後の

課題を考え直してみたいと思います。まだまだ勉強不足ですが、とりあえず今は次の三つにまとめてみました。

- ① 行政との協働による計画づくり
- ② 事業者（施設等）の連携・協力
- ③ 事業推進への市民の参加

これらは、何も新しいことではないと思います。行政が立案する様々な福祉計画では施設の意見も聞いてもらっているはずですし、施設間の交流や協力、会議など、今までもありました。また、特に小羊学園においては、ご寄付くださる方、ボランティアなど、大勢の方たちがその働きを支えてくださいました。

しかし、施設が円滑に運営できるようにという発想で、結局は補助金など経済的な支援について行政にお願いしたり、新しい支援技術等の研修を効率よくやることや、行政との交渉のために協力したり、ボランティアの受け入れも施設の枠組みの中でご協力くださる方は受け入れてきましたが、一緒に地域を作っていくという発想に立っていないかったのではないかと反省させられるのです。

小羊学園を支える会の総会を前にして、自分たちの力のないところは是非とも支えていただきたいのですが、同時に、小羊学園をきっかけに、地域の課題に共に取り組む人たちがつながることができれば嬉しいのです。

ケアホームの暮らし

法人には2事業所5拠点のケアホームがあります。今回はその暮らしの様子を報告したいと思います

ケアホーム「カトレア」の暮らし

主任支援員 鈴木 美智子

二十一年四月よりケアホームカトレアがスタートしました。住居は、浜北区寺島の閑静な住宅地にあり、わかぎから車で十五分ほどの所にあります。地域で生活するにあたって自治会に入り回覧板、ごみ出し、草刈など地域の皆さんと同じ暮らしをしています。入居されている方は、四名で内三名の方は自活訓練（入所施設に籍を置きながら地域で少人数の生活をする訓練）を経験した方で、全員が女性です。平日は、オリブの樹（通所施設）へ通い木工作业などに取り組んでいます。



入所施設から地域へ生活の場を移して四ヶ月が経とうとしています。入居者の皆さんの暮らしの様子や気持ちの変化は様々なようです。

例えば一番長く自活訓練を経験してきたクニコさん。四月当初は何度も『ずっとこちらだね?』と確認しその都度『土日もカトレアです』と説明すると、笑顔で『良い所ですね』と答えてくれました。しかし五月連休に入ると表情や口調に変化が現れ始めました。生活のスタイルが変化したことが要因だと思うのですが、特に休日の過ごし方に不安があるようです。これまで生活していたわかぎでは作業のない水曜日午後や土日には活動予定表があり、余暇活動、趣味の会、個別外出、美容院等が各棟に掲示され、利用者さんも過ごし方の見通しが持てていました。しかし、カトレアの生活ですと、美容院に出かける際は「そろそろ長くなってきたから行こうかね」と計画性がありません。入所施設に比べると生活の自由度は多いのですが、クニコさんの場合、予定が計画されている方が現状では安心するようです。そこで外出や旅行は、利用者会議を行い利用者と一緒に計画を立てるようにしました。

また、自活訓練の経験がないトミコさんは四月以降のカトレアの生活が安心できるのか、時々わかぎに立寄っても中には入ろうとせず、車の中で待っています。同じ入所施設から地域生活への移行でも思いや気持ちは人それぞれだと感じます。

クニコさんが言った『良い所』の内面には、カトレアで暮らす現在も三十二年近くわかぎで暮らした思い出が深く第二の故郷でもあり、切っても切れないものではないかと感じています。わかぎでの集団生活では仲間や支援員との繋がりは大きいと思いますが、ケアホームという少人数での暮らしだから出来る選択性や自由な時間設定が提供できると思います。皆さんの気持ちに沿いながら充実した暮らしが出来るように私達支援員はモチベーションを上げながらも気負わず生活支援に取り組みたいと考えています。

最近のエピソードを紹介します。夕方涼しくなる頃、職員が庭に出て水をまき、草取りをします。そこへクニコさんがやって来て草を抜きながら私のくだらない話を聞いてくれます。次にトミコさんも登場し、せっせと草を集めて袋に入れてくれるのですが、袋も最初から用意していないのでジェスチャーでツタエさんをお願いしています。隣の家の方が時々出てきて『こんばんは。やっと風が出てきて外のほうが気持ちいいですね』と挨拶を交わしてくれます。しばらくすると蚊にさされ「かゆい、かゆい」と連呼していると『これだから』とクニコさんがムヒをやさしく手渡してくれます。「ありがとう」と



言葉を掛け、塗っているとトミコさんが『かゆい』と塗っている場所をさすってくれます。気がつくともう時計の針は七時近くを指しています。慌てて夕食配膳に取り掛かります。トミコさんがテーブルを拭いてくれるとクニコさんがお茶を注ぎながらトミコさんに『熱いですからね』と声を掛けてくれます。準備が揃うとトミコさんツタエさんが食卓に着き遅めの夕食となりました。

スタートして間もないカトレアの課題は山積みですが、現状の反省面をふまえ支援員同士が情報や利用者の理解を共有し、彼女たちの生活を支えていきたいと考えています。また、一人勤務が多い職場なので、職員が現場で孤立しないように共通認識を持って方向性を模索していきたいと考えています。

『行ってらっしゃい。』

お帰りなさい』

生活支援員 梅林 弘利

現在、三方原エリアでは「温心寮」「あゆみホーム」「ひだまり」の三箇所です。十九歳から五十歳代の利用者十七名がケアホームで生活を送っています。「ケアホームの暮らし」と言っても何か特別な生活というものではありません。ごく普通の家庭での生活の流れと大きな変化はないと思います。住居は、以前の学生寮・社宅・旧職員宅と様々ですが、そこに住む一人ひとりが健康で安心できる場になるよう、支援職員と日々取り組んでいます。それでは各ケアホームの紹介をしたいと思います。

「温心寮」

ケアホームで三方原スクエアに一番近い温心寮には、六名（男性五名、女性一名）が生活しています。入居して八年経過された方からこの四月に入居された方もおり、年齢は十九歳～四十六歳まで幅広く、それぞれが日中活動として五ヶ所の事業所へと毎日通っています。生活の中ではそれぞれの個性を生かし「気になること」を探りながら、皆さんと一緒に取り組んだり、個々に各事業所のイベントに参加しています。その中で情報交換したり情報共有しながら、その人らしさのあ

る落ち着いた生活が送れるように、支援者と利用者が取り組んでいます。



「ひだまり」

ひだまりは、三方原スクエアから三km程離れたテクノランド細江の住宅街の一角に位置し、開設して二年半が経過しました。入居者は三十歳～五十歳半ばの女性六名です。比較的作业が出来る三名は三方原スクエア内のハウスキーピングに出掛けています。五十歳前後の方たちです。健康や体力面での変化もあり個人にあった無理のない仕事を提供し、食生活でも肥満予防に考慮したメニュー作りをしています。他の三名の方は三方原スクエアの日中活動に通っています。自分の希望を言える方々なので、できるだけ希望に沿った計画を立て、週末は買い物・環境整

備・外出などを行っています。また、日常的に近隣にお住まいの方との交流を大切に考え、地域の行事にも参加しています。アルバイトやボランティアの協力もあり、女性ならではの喋りに花が咲き、にぎやかなケアホームです。

「あゆみホーム」

あゆみホームは三方原スクエアから一km程離れた住宅地の中にあります。以前、小羊学園職員が住まわれていた住宅をお借りし、自活訓練ホームとしてスタートしました。昨年十一月よりケアホームに移行し、新たな利用者も加わりました。年齢は二十歳代～五十歳代の男性三名・女性二名の計五名で生活しています。平日の活動は、三名が三方原スクエアの日中活動に参加しています。他の二名は山浦前理事長が住んでいた住宅を拠点として活動しています。てんかん発作や歩行の不安定な利用者がいますので、健康管理と安全確保が第一になりますが、生活の中でそれぞれが出来ていることを維持できるように支え、出来ない事柄については快く援助する姿勢で一緒に取り組んでいます。また、言動を繰り返す場面を意識的にすることで、喜びや安心感が皆さんの生活の中に見られます。現在、あゆみホームでは肥満予防と便秘解消を目的にこんにゃくご飯と食物繊維の多い食材を取り入れた食

事をつづけています。住宅街にありながら、近隣の方々との交流が浅いので、利用者の新たな経験の機会を作る場としても地域交流が課題となります。



最後にそれぞれのケアホームが異なる状況で様々な暮らしを送っているのですが、一日を通じてひとりの支援者が勤務に入り、状況判断・連絡調整・報告記録と総合的な支援ができるよう心がけたいと思います。

出掛ける際「行ってらっしゃい」帰宅の際「お帰りなさい」と出迎えてくれること、ケアホームで流れる生活の料理や掃除などの場面を常に身近で感じられることが、ケアホームでの暮らしの共通点であり、魅力だと思います。みなさん「行ってらっしゃい！」「お帰りなさい！」

わかぎの夏祭り



七月二十五日(土)にわかぎの夏祭りが行われました。当日は梅雨明け前のあいにくの天気で、予定していた屋外での盆踊りはできませんでしたが、会場をプレイルームに変更して行いました。開会后、まずはみんなで盆踊りを踊りました。普段、民謡教室で練習している曲目になると、利用者の皆さんも上手に踊っていました。また、末広先生が叩く太鼓の音が室内に響いて、お祭りの雰囲気が一層増します。お祭りにとって、もう一つのお楽しみが模擬店！今年は、塩焼きそば・たこ焼き・かき氷・フライドポテト・わらび餅などのお店が軒を並べて出店しました。お祭りの最後に中庭で花火を眺め、夏の楽しい一夜が終わりました。

今回の夏祭りにも、保護者の方・ご近所の方・オリーブの樹の利用者ご家族・旧職員等が訪れました。また、浜北西高校や大学生等のボランティアに

応援いただき、二百名を超える大勢の皆様と交わりの時を与えられ、楽しい時間を過ごすことができました。

オリーブの樹保護者会主催

オリーブ祭り

日時 21年9月19日(土)
10:30~14:30

内容 バザー・模擬店・イベント

バザー用品のご寄贈にご協力下さい

皆様遊びにいらして下さい！

住所 浜松市浜北区尾野462-2

電話 582-3415

— 小羊学園写真集 — ②
園内の「姉と妹」が共有する静穏な時間 重い人間同士のふれあい



この写真は、前小羊学園青年寮施設長の渡邊禎子さんが就職した頃のもので、ソノコさんの髪の毛をとかし、ゴム紐で束ねているシーンです。写真集の中で渡邊さんは記者にこう答えています。『こどもが好きだけでなく、なんでも好きな仕事は辛いはずはないと思います。確かに

疲れることはありませんが、少しもいやな仕事だとは思いません』その言葉通り、こどもたちの成長を支え、こどもが大人になってからもともに過し、四十年近く小羊学園に携わりました。記事の中には、当時四歳だったトミコさんのことが書かれています。言葉・排せつや食事の成長に懸命に向き合った姿が載っていますが、そのトミコさんも、もう四十歳後半。今はカトレア(ケアホーム)で生活しています。幼少期から成人期と多くの療育者に支えられながらご本人の現在があることを再考させられる写真です。

小羊学園を支える会

小羊学園を支える会総会のご案内

今年度の総会を下記のとおり開催します。小羊学園をご支援くださっている方(寄付者、ボランティア等、どなたでもご参加できます。)

記

日時 2009年8月30日(日)午後1時半 受付開始
2時

場所 日本キリスト教団遠州教会1F 集会室にて

内容 2008年度事業報告・会計報告

2009年度事業計画・規約改正

講演「小羊学園の現状と課題」稲松理事長
以上

小羊学園を支える会 代表 小林 眞

2009年度寄付金報告

7月受付分 660,200円(40件)

累計 2,424,423円

小羊学園への寄付金振込み先

(口座名義)「小羊学園を支える会」

郵便振替口座 00890-4-45415

りそな銀行浜松支店 (普通) 040005

静岡銀行細江支店 (普通) 043483

ご希望があれば、郵便振替用紙をお送りします。
下記へご連絡ください。

三方原スクエア ☎053-414-1833

編集後記

法人には支援担当者会議・事務担当者会議という執行役員会のもとに専門部会があります。支援担当者会議には、各施設の支援を統括する職員が参加し、支援のあり方や職員研修などを議論しています。先日、デイケアホームの出水施設長から、小羊学園のこれまでの実践を再確認し、これから進むべき姿を検証したいと提案がありました。提案を受け私自身、小羊学園が実践してきた支援とは何か、他の法人と何が違うのか見つめ直し、現在働いている職員・そして将来担っていく職員に小羊学園の理念と実践に基づく援助技術を伝えることが大事だと感じました。

冷夏とは言え残暑厳しい折です。皆様お身体をご自愛下さい。

(F)